



## 多毛環虫類の一種 *Nerinides* sp. について(予報)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 今島, 実 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00000531">https://doi.org/10.32150/00000531</a>

多毛環虫類の一種 *Nerinides* sp. について（予報）

今 島 実

北海道学芸大学尻岸内臨海実験所

Minoru IMAZIMA : Note on a Spioniform  
Polychaeta, *Nerinides* sp.

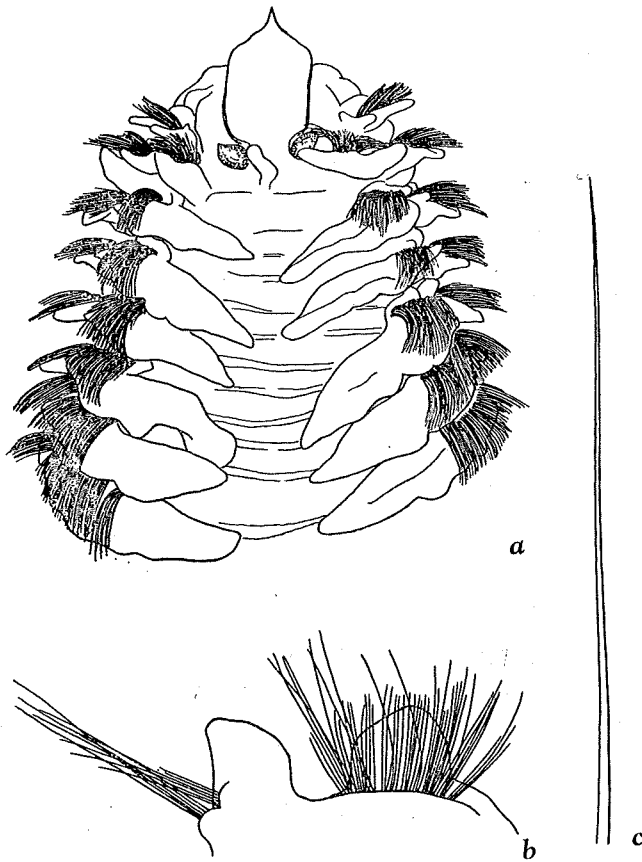
本邦近海に於ける多毛環虫類の調査は Moore, J. P., 飯塚, Fauvel, P., 奥田その他によつてなされてきたが, *Nerinides* 属のものは奥田 (1937) が不完全なる一個体に基いて記載した *N. papillosus* 唯一種が朝鮮から報告されているに過ぎず, 本邦の沿岸からまだ知られていない。

ところが筆者は 1955年4月~5月に本学尻岸内臨海実験所附近の海浜から *Nerinides* の一種の完全なる数個体を得た。そこで筆者は山口教授のお奨めに従いこの材料が *N. papillosus* に同定されるべきか否かを調べた結果, この種類に類似した点が極めて多いが明らかに重要な差異があり別種と見るべきものと思われる。その種名については今のところ明らかにすることは出来ないが, この属のものが尻岸内沿岸から採集されたことは本邦沿岸からの新記録となるので取あえず予報する次第である。

御懇篤なる御指導と論文の御校閲を賜った北海道学芸大学函館分校山口英二教授に心から感謝申し上げます。

形態 体長 50mm, 体幅 4.5mm に達し, 環節数 87—102 を数える。前口葉前端は尖り, 後方には1ヶの直立した短い後頭触手を第1と第2剛毛節の中間に有する。1対の長い感触手は後方にのびた時は第8剛毛節に至り, 先端は次第に細くなる。その基部には高さ 0.7mm に達する膜様鞘があるが腹側には及んでいない。そして先端の遊離した縁には8—14ヶの指状突起を有する。頭部には4ヶの黒い眼点を有するが, 甚だ小さく固定された標本ではこれを認め難い。第1剛毛節の疣足は背側が指状の足葉で背足枝には腹足枝と同様な単一針状剛毛を有する。鰓は第2剛毛節より始まり非常に発達して背面上を横に並ぶ。扁平で裂片状, 下縁には密に剛毛を有する。第10—第20剛毛節にて最大でそれより前方, 後方につれて漸次小さくなり体末端での鰓は葉状となる。背足枝は鈍三角形で基部に於て鰓と結合する。腹足枝は卵形, 第10剛毛節附近で直立する。腹足葉は体前部で鈍円錐形状を呈するが漸次横に長くなり, 第28—第38剛毛節にかけ最も長く第2剛毛節のその約4倍に達する。それから漸次縮小し, 第60剛毛節では第30剛毛節の約  $\frac{1}{2}$  に減じ, 体末端では更に縮小して半月形となる。被囊鉤状剛毛は第20—第21剛毛節の腹足枝に始まりその数 4~5ヶである。第30剛毛節では20ヶ前後, それより漸次増し第70剛毛節では30ヶに達し一列に並ぶ。体末端になるにつれその数は減少する。形は細長い歯根の上に2ヶの短い歯をもち三叉を呈する。そして常に腹足枝にはこの剛毛と共に単一針状剛毛も混在する。

環肛節には腹側に1ヶの半球状の附属物を有する。しかしその背側から腹側に向い途中までくびれを生じているため背側からみると2葉になつているが, 腹側は滑らかである。肛門は背側にひらく。



第1図 *Nerinides* sp.

- a. 体前部背面, 触手移動 ×20
- b. 第1剛毛節の右疣足 ×45.
- c. 同背足枝剛毛 ×200.

生態 干満潮線間の砂中に砂の管を作りその中に棲息し、管の口の一方は砂上に開く。4月が産卵期で長さ 2~2.5cm の長楕円形の卵囊を管の口の一端に附着させ、その中に緑色の卵を含む、成体は有孔虫、石灰藻等も食するとみえ腸内より認められた。

考察 以上述べたことから明かなように筆者の材料は、奥田によつて最初に記載された *N. papillosus* とは1ヶの直立した後頭触手があること、感触手の膜様鞘が存在すること、第1剛毛節の背足葉が単一指状であること、鈎状剛毛の先端が三叉になっていること等に於いて全くよく類似している。併し、眼点が認められること及び第1剛毛節の背足枝に針状剛毛が存在する点は明かな相違である。また鈎状剛毛の現れる剛毛節は *N. papillosus* では第16剛毛節からに対し、筆者の材料では第20~21剛毛節より出現することも異つている。これらの中で最も顕著な差異は眼点の有無と第1剛毛節の背足枝剛毛の有無とであろう。眼点については Ireland から報告されている *N. tridentata*, *N. longirostris* 等には明らかに2対存在しているが、他の諸点で大きな差異がみられる。何れにしても本材料は奥田の *N. papillosus* と非常に類似しているが、上述の顕著な差異がみられることより明らかに別種と見るべきであり、或は新種ではないかと思われる。

#### 文 献

- Okuda, S. : 1937. Spioniform polychaetes from Japan. Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. Ser. VI, Zool., vol. V, No. 3.
- Southern, R. : 1914. Archannelida and Polychaeta. Clare Ireland Survey Proc. R. Irish. Acad., Vol. 31.